

第4章 試験検査

試験検査業務は、行政検査と依頼検査に大別される。

行政検査としては、健康危機管理に伴う検査、食品保健に係る検査、水質検査、臨床検査等を行った。

依頼検査としては、食品検査、水質検査、糞便検査等を行った。

第1節 行政検査

1 健康危機管理

(感染症、食中毒等関連検査)

感染症や食中毒など健康危機の発生に対し、保健所は、迅速に原因を究明し、健康被害の拡大を防止するための初動検査を実施している。

健康被害の発生に伴い、検便や食品等検体について関係項目の検査を実施した(表1)。

このうち健康被害の原因と判明した病原微生物について、血清型、毒素型を示す(表2)。

表1 健康被害発生に伴う検査

平成29年度(単位:件)

検体の種類		便・吐物	食品	ふきとり	計
検体数		93	5	18	116
検査項目	腸管出血性大腸菌	93	—	—	93
	病原性大腸菌	65	—	18	83
	大腸菌群	—	—	3	3
	サルモネラ属菌	58	—	18	76
	腸炎ビブリオ	58	—	18	76
	黄色ブドウ球菌	58	—	18	76
	カンピロバクター	58	3	18	79
	セレウス菌	58	—	18	76
	ウェルシュ菌	58	—	18	76
	ノロウイルス	58	—	—	58
	ロタウイルス	—	—	—	—
	グロアセプトエンテロコッカ	—	2	—	2

ノロウイルス・ロタウイルス・グロアは保健環境センターで実施

表2 健康被害の原因と判明した病原微生物

平成29年度

発生日	検体	原因病原微生物
H29.4	便	腸管出血性大腸菌 0103:H2 (VT1)
4	便	ノロウイルス GI
4	便・食品	カンピロバクター
5	便	腸管出血性大腸菌 0128:H2 (VT1, 2)
5	便	ノロウイルス GII
6	便	腸管出血性大腸菌 026:H11 (VT1)
6	便	腸管出血性大腸菌 0157:H7 (VT1, 2)
6	便	ノロウイルス GII
7	便	腸管出血性大腸菌 026:H11 (VT1)
8	便	カンピロバクター
8	便	腸管出血性大腸菌 055:H1 (VT1)
9	食品	グロアセプトエンテロコッカ
12	便	腸管出血性大腸菌 023:H21 (VT2)
H30.1	便	ノロウイルス GI.3
1	便	腸管出血性大腸菌 091:H14 (VT1)
2	便	ノロウイルス GII
2	便	ノロウイルス GII
3	便	ノロウイルス GI・II
3	便	腸管出血性大腸菌 015:H (VT2)

2 食品保健

(1) 食品衛生一斉監視指導等

食品製造事業者等に対し、春・夏・秋期及び年末の食品衛生一斉監視指導に伴う収去食品について、細菌検査を実施した(表3)。

表3 食品衛生一斉監視指導等による収去検査

平成29年度(単位:件)

区 分	食 品			合 計	
	成分規格	県指導基準	その他		
検 体 数	36	26	—	62	
検 査 項 目	細菌数(生菌数)	22	26	—	48
	大腸菌群(定性)	22	—	—	22
	大腸菌(定性)	4	26	—	30
	大腸菌(定量)	—	—	—	—
	腸管出血性大腸菌	—	—	—	—
	サルモネラ属菌	—	16	—	16
	黄色ブドウ球菌	—	16	—	16
	カンピロバクター	—	—	—	—
	腸炎ビブリオ(定性)	4	10	—	14
	腸炎ビブリオ(定量)	14	—	—	14
恒温試験及び細菌試験	—	—	—	—	

(2) 食鳥処理場一斉点検

管内の食鳥処理場は、29年度休業中のため一斉点検を行わなかった(29年度末廃止)。

3 水質検査

海水浴場水について、管内4ヶ所の海水浴場で開設前と開設中の年2回採水し、水質検査を実施した(表5)。

表5 水質検査 平成29年度(単位:件)

区 分		海水浴場水
検 体 数		28
検 査 項 目	pH	28
	COD	28
	糞便性大腸菌群数	28
	腸管出血性大腸菌O157	5

4 臨床検査

(1) HIV抗体検査

免疫クロマトグラフィー法によるHIV迅速検査を115件実施した。